

下野市立南河内第二中学校

1 学校課題

思考力や表現力の向上を図り、自ら課題をもち、共に学び合い、深い学びに向かう生徒の育成

2 研究計画

(1) 研究のねらい

小中一貫として南河二中校区の小中学校と同じ研究課題で進めていくことになった。小学校では、理数教育に特化した研究だが、本校では、昨年度の研究を生かし全教科で研究が進められるよう、思考力・表現力の育成及び主体的・対話的で深い学びの追究に努めていく。そのため、生徒の学習意欲を高めるには学習課題をどのように設定し、授業のねらいをどのように生徒と共有していくか、また、思考力・表現力を高め、深い学びにつなげるには、どのような学習形態や指導方法が有効か、さらには「振り返り」をフィードバックできるようにするにはどうしたらよいかについて教科をあげて研究する必要があると考え、この研究主題を設定した。

(2) 学校課題の研究によって目指す生徒像

○主体的に考え、学び合いを通して互いに高め合える生徒

(3) 研究目的・内容

学校課題に基づいて、主に以下の3点について、実践や検証をすることで、今後の学習指導の向上に資することを目的とする。

- ① ねらいの共有と課題設定の工夫
- ② 思考力・表現力の育成につながる深い学びの探究
- ③ フィードバック可能な「振り返り」の実践

(4) 研究方法

- ① 授業時に教師と生徒によるねらいの共有を図るとともに、生徒が目的意識を持って主体的に授業に臨めるよう「振り返り」を参考に生徒の興味・関心や疑問からねらいに沿った学習課題を設定するよう努める。
- ② 思考力・表現力の育成に向け、各教科で指導法や言語活動の在り方、発問の工夫等を研究し、いかにして深い学びにつなげるかを研究していく。また、定期的に教科部会を開き、教員同士の情報交換の場を確保し、教科間で協力しながら研究が進められるよう努める。
- ③ 各教科で「振り返り」を実践し、生徒自ら学びの達成感や自己の取り組み状況について把握できるようにするとともに、生徒の躓きや疑問、新たな課題といった生徒の実態を教師が分析し、その後の授業改善に役立てられるよう努める。

(5) 研究手順

研究方法で示した内容を以下の手順で進めていく。研究授業は今年度年間4回設定し教科の枠を取り除いて全教職員が参観する。研究授業の成果と課題のもと、各教科の研究実践や授業改善に生かしていく。

- ① 4月 各教科部会で研究計画の作成・研究のポイント・目指す生徒像の設定
評価計画・指導計画・課題設定についての検討
4月18日 全国学力・学習状況調査実施(3年)
" とちぎっ子学習状況調査実施(2年)
" 教研式標準学力検査(1年)
- ② 7月 とちぎっ子学習状況調査及び教研式標準学力検査の分析
各教科で評価計画及び指導計画について検討
- ③ 10月 全国学力・学習状況調査の分析
各教科部会で評価計画及び指導計画の修正及び自校化について検討
- ④ 『深い学び』に関する研究授業・授業研究会の実施
9月 社会・理科(S&U コラボ事業)
11月 数学(S&U コラボ事業)
12月 特別の教科 道徳(S&U コラボ事業)
- ⑤ 12月 教科部会で研究報告の作成
*前期(7月)・後期(11月)(2月)に「道徳を語る会」を実施

3 研究内容

- (1) ねらいや目標に合わせ、どのように課題を設定し、かつ学習形態を工夫したか。
- 教科書を読んで、自分の考えを書いて整理し、その後、互いに書いたものを読み合い、考えを伝え合う活動を意図的に授業に取り入れた。(国語)
 - 難易度がやや高く、課題解決のために生徒同士が互いの力を必要とする課題を設定するとともに、授業の中で話し合う場を意図的に設けた。(社会)
 - 課題の設定は教科書の内容に準拠した提示の仕方を心掛けた。思考力を育む内容においては、全員が活動に参加できるように、3～4名の小集団を取り入れた。(数学)
 - 思考力・表現力を育成するため、根拠を明らかにして説明する課題を意図的に設定した。また、自分の班の結果だけでなく、他の班の結果も参考にできるように、タブレット端末や実物投影機を活用し、情報の共有化に努めた。(理科)
 - クラスの実態に合わせ段階的な課題を設定し、毎時間ステップアップが図れるよう工夫した。また、チームで改善点等について話し合い、付箋を用いて発表させたことで、情報の共有化と課題への意識付けが図ることができた。(音楽)
 - 2つの領域を同時に行う複合的な題材を取り上げ、完成までのプロセスを明確化することで、作品の充実につながった。また、ワークシートを活用することで、役割分担等、個々の活動が明確になった。(美術)
 - 個々のレベルに応じた見取りを意識した課題を設定するよう工夫した。学習形態では、指導場面に応じて一斉指導とペア学習・チーム学習を使い分け、効率よく活動ができるよう配慮した。(保健体育)
 - プログラミング学習の課題解決的な場面では、互いに協力し、助け合いながら課題解決に迫るチーム学習を取り入れた。また、家庭科分野の小物製作では、同じ目標の生徒同士でチームを作ることで、作業がスムーズに進んだ。(技術・家庭科)
 - 各単元の最終目標としてパフォーマンステスト及びそれに向かう表現活動を設定した。その目標を達成するために、様々な活動をスパイラルに行うよう工夫するとともに、活動に合わせてペア学習やチーム学習を取り入れ授業を行った。(英語)

(2) 深い学びにつながるため、導入や発問をどのように工夫したか。

- 導入では、ICT機器を活用して映像や実物を提示し、生徒の興味・関心を高めたり、疑問をもたせたりするよう工夫した。しかし、導入だけでは一時盛り上がるものの、その後の展開で深まりのある授業にならないため、授業の途中で新たな問いにつながる資料を提示したり、生徒の思考を揺さぶるような発問をしたりして、連続性のある授業展開を心がけた。

(3) 「振り返り」で得られた結果をその後の授業にどう生かしたか。

- 「振り返り」では、授業の最後に感想を書かせたり、授業の最初に前時の復習問題を出したりすることで、生徒の思考の変化や深まり、あるいは知識の習得率等を確認した。それをもとに、自分の授業で不足していた点を把握し、次時の授業で補足説明するなど授業改善に役立てることができた。さらに、教師が生徒の感想にコメントを書くことで、生徒と教師のコミュニケーション手段としても有効となった。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ICT機器を活用し、映像や実物資料を積極的に取り入れることで、生徒の学ぶ意欲や課題意識を高めることができた。
- 他者とともに学び合うことに意味を感じるような課題設定を心掛けたことで、チームでの話し合いが活発に行われた。
- 自分の考えを読み合ったり、伝え合ったりする中で、他者からの賛同や指摘、評価が入ることにより、生徒の学習意欲が向上し、よりよい成果につながる事が再確認できた。
- チームでの発表時にタブレット端末や実物投影機を活用したことにより、情報の共有化を図ることができ、発表方法の改善にもつながった。
- 「振り返り」で授業の感想を記述させたり、前時の復習問題等を取り上げる時間を設けたことにより、客観的に自己の授業を分析し、その後の授業改善に役立てることができた。

(2) 研究の課題

- 導入だけで盛り上がる授業ではなく、1時間を通して、ねらいや目標に沿った生徒の思考が深まる授業展開を目指していきたい。
- 「話し合い活動」は、ともに学ぶ姿勢の具現化であり、有効な手立てではあるが時として生徒が他者を安易に頼り、一部の生徒が活躍するといった状況に陥ることがある。それを回避するため、まずは「自ら課題をもつ」ことからスタートできるような導入・発問の工夫を今後も続けたい。
- 「話し合い活動」をより活発にするため、自分勝手な意見にならないよう、けじめを意識させた上で、自由に意見が言い合える雰囲気作りを心掛けたい。
- 「根拠に基づいて論理的に説明する力」の育成に課題があるため、今後も表現活動の機会確保に努めていきたい。